

全般季節予報支援資料

1か月予報

2025年2月20日

予報期間：2月22日～3月21日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

東・西日本では、期間の前半は気温の変動が大きいです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

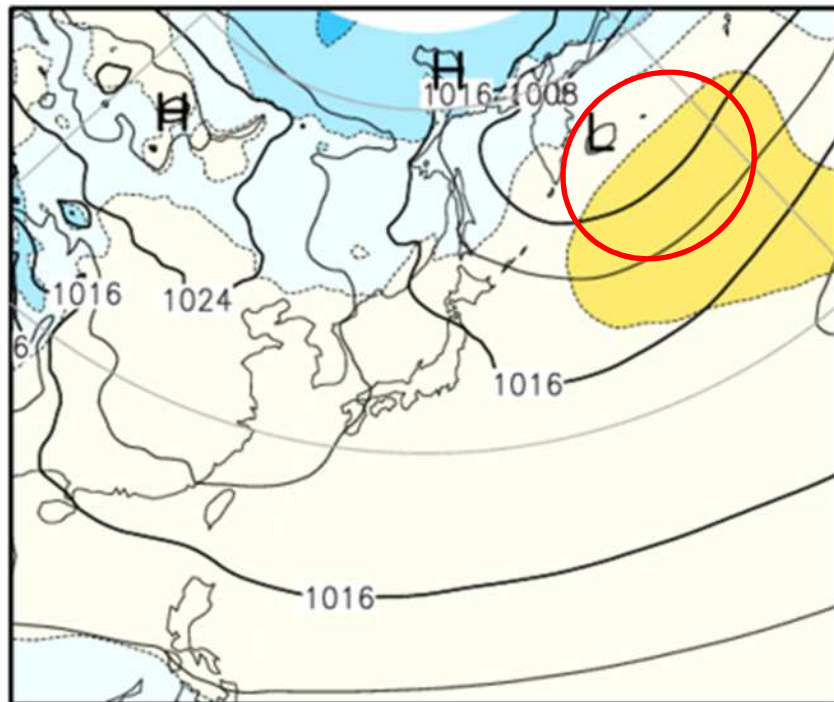
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:40:50	30:40:30	30:40:30	40:30:30
	太平洋側		30:40:30	40:30:30	
東日本	日本海側	30:50:20	30:40:30	30:40:30	30:40:30
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
西日本	日本海側	30:50:20	40:30:30	30:30:40	
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
沖縄・奄美		60:30:10	40:30:30	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:40:40	20:30:50	10:40:50
東日本	70:20:10	20:30:50	30:40:30
西日本	70:20:10	20:30:50	30:40:30
沖縄・奄美	70:20:10	20:50:30	50:30:20

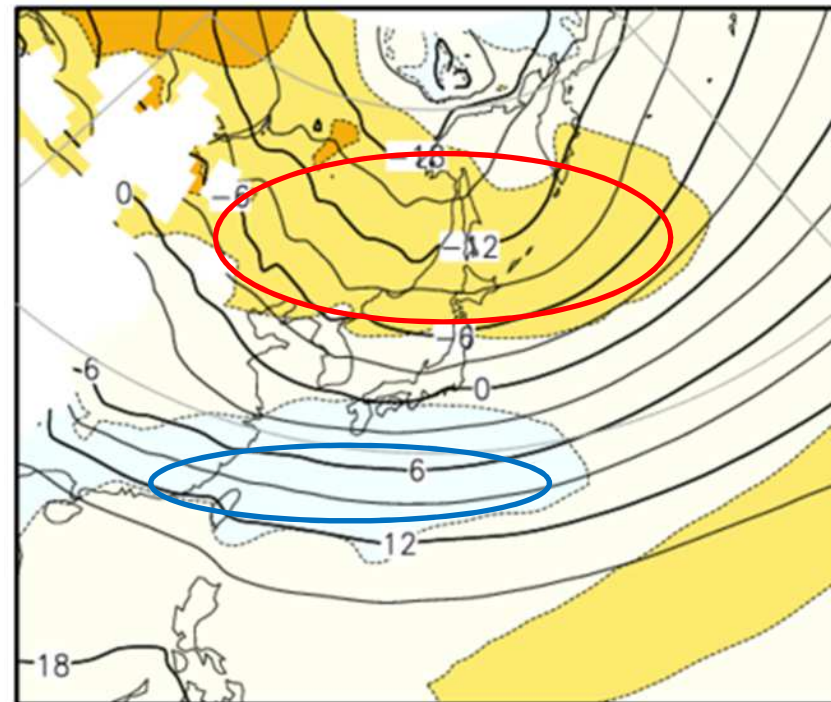
全般予報のポイント

- ・北日本では、寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・東・西日本では、1週目は寒気の影響を受けやすいため気温が低くなり、2週目は寒気の影響を受けにくいいため気温が高くなり、気温の変動が大きいでしょう。
- ・沖縄・奄美では、寒気の影響を受けやすいため、向こう1か月の気温は低いでしょう。

海面気圧(1か月)



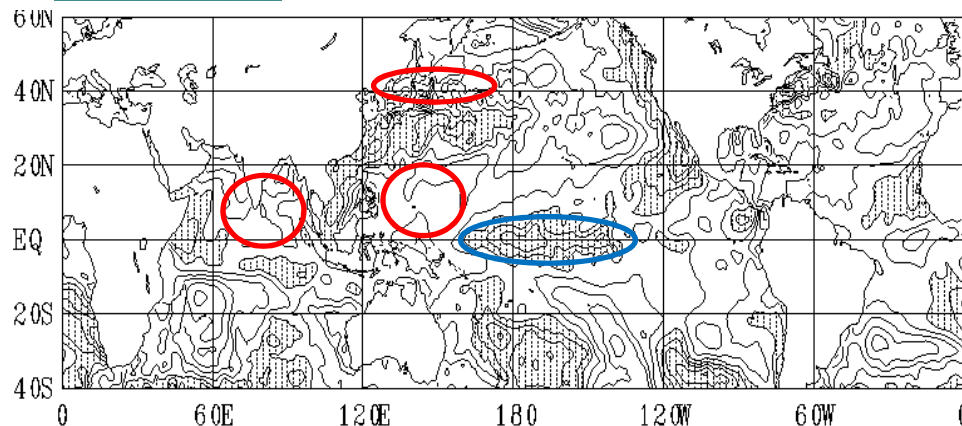
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、アリューシャン低気圧が弱く、北日本を中心に冬型の気圧配置が長続きしないでしょう。

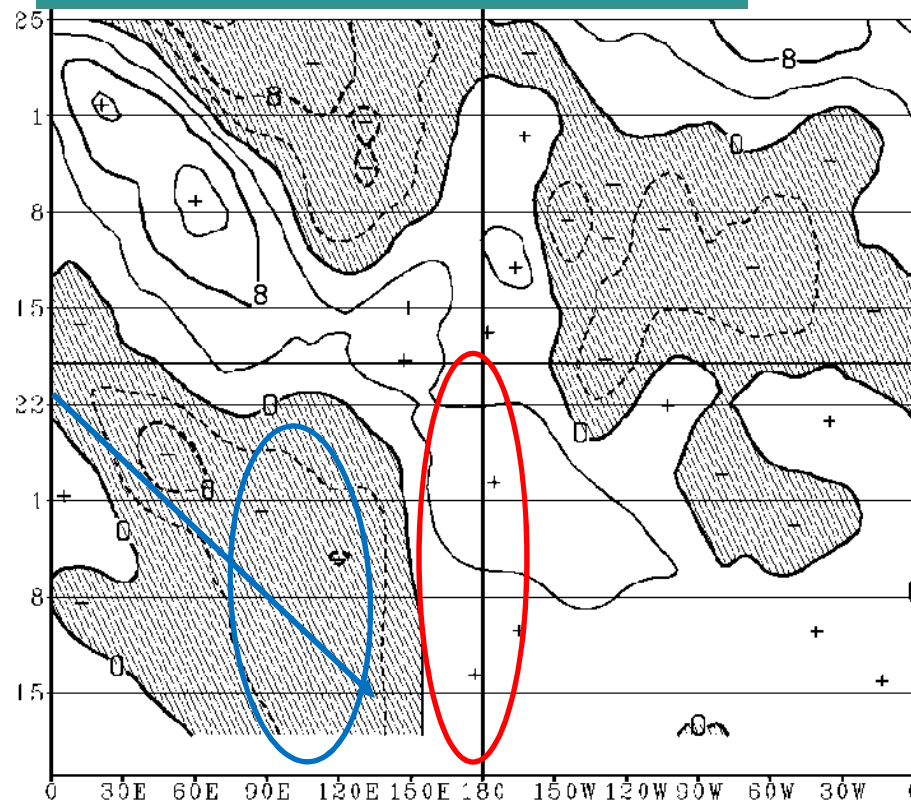
上空約1500mの気温(右図)は、華南から日本の南にかけて平年より低く、沖縄・奄美を中心に寒気の影響を受けやすいでしょう。一方、中国東北区から千島の東にかけて平年より高く、北日本を中心に寒気の影響を受けにくいでしょう。

SST偏差



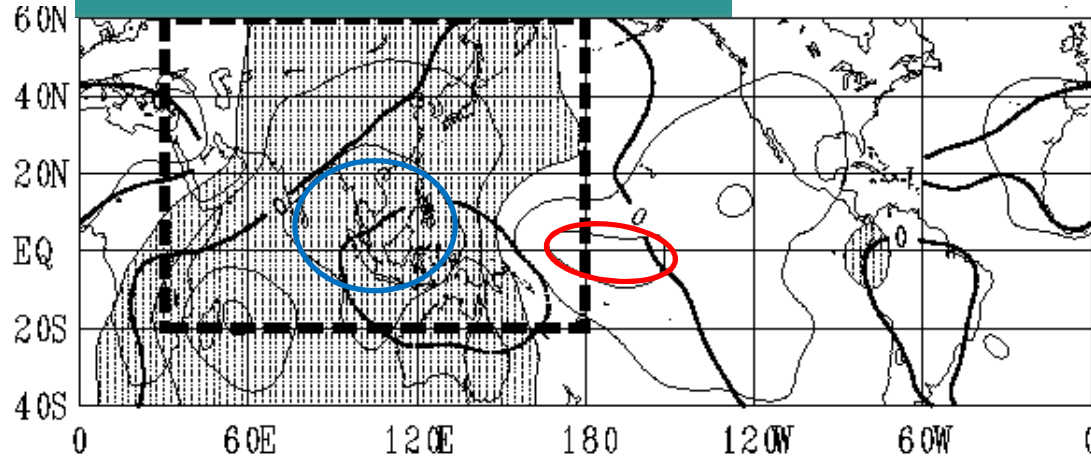
熱帯域では、インド洋と太平洋西部で正偏差。太平洋赤道域中部を中心に負偏差。日本海北部から日本の東にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



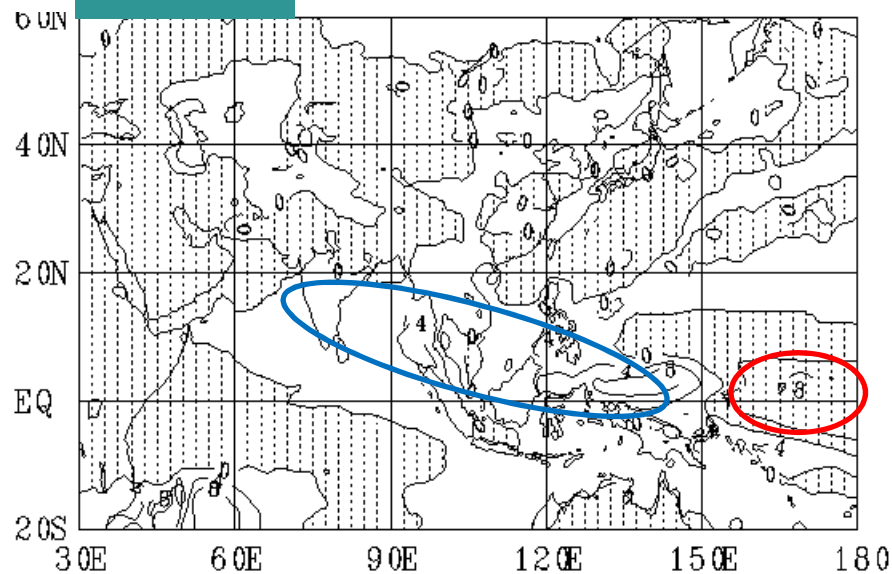
インドネシア付近ではMJOの位相も合わさって、2～3週目を中心に対流活発。日付変更線付近で期間を通して対流不活発の状態が続く。

200hPa速度ポテンシャル



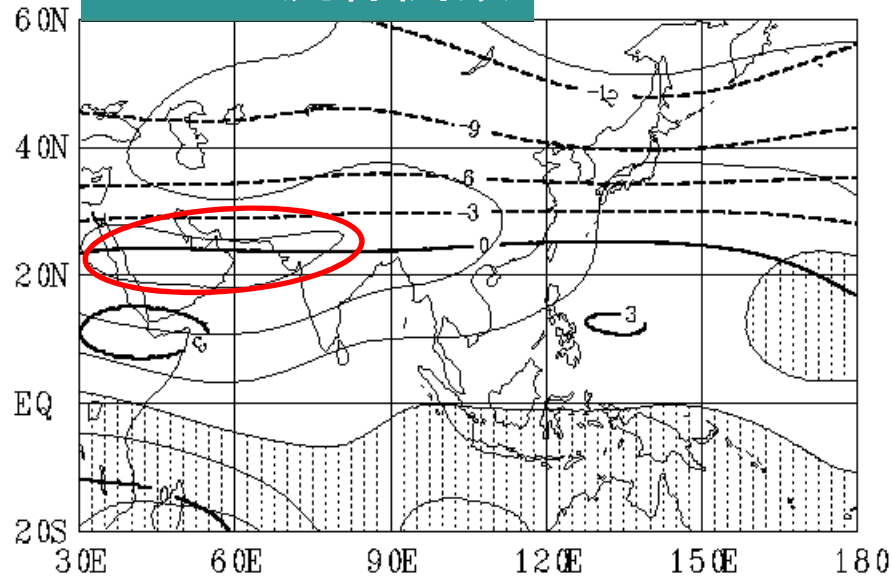
熱帯のSSTに起因する対流活動に対応して、インド洋東部からインドネシア付近にかけてを中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



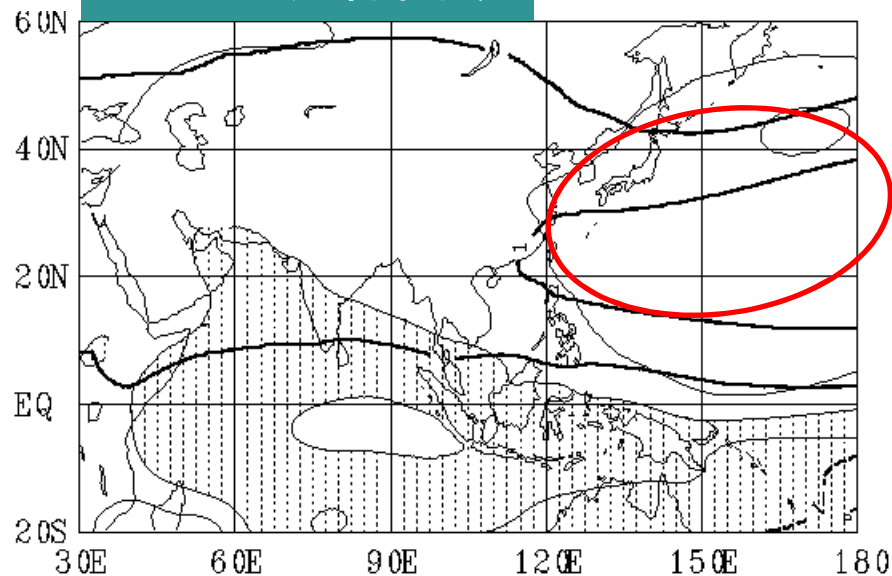
インド洋からインドネシア付近にかけて多雨偏差の一方、日付変更線の西で少雨偏差。

200hPa流線関数



アラビア半島からパキスタン付近にかけてを中心に高気圧性循環偏差。

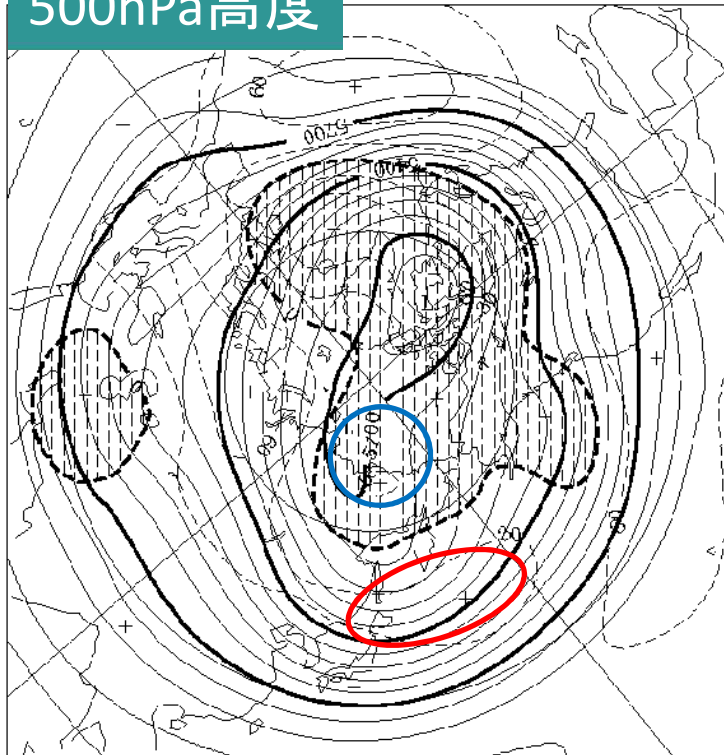
850hPa流線関数



日本付近は高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 1か月(2/22~3/21)

500hPa高度

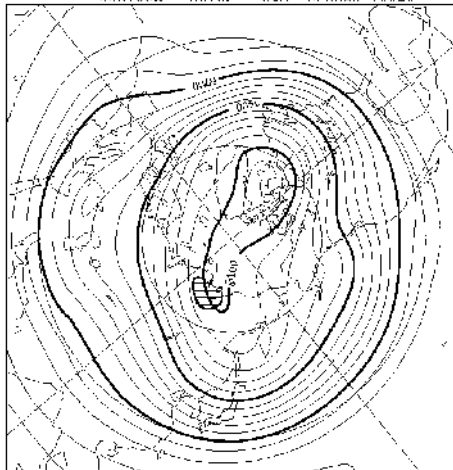


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF HEIGHT ANOMALY AND S.D.

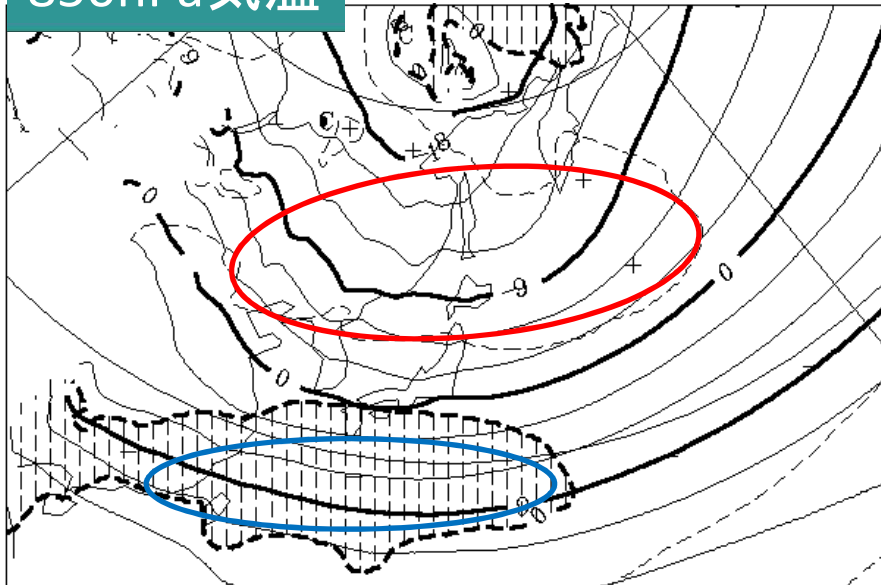
CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 10.25

CONTOUR S.D.: 30m PROB: 10.25



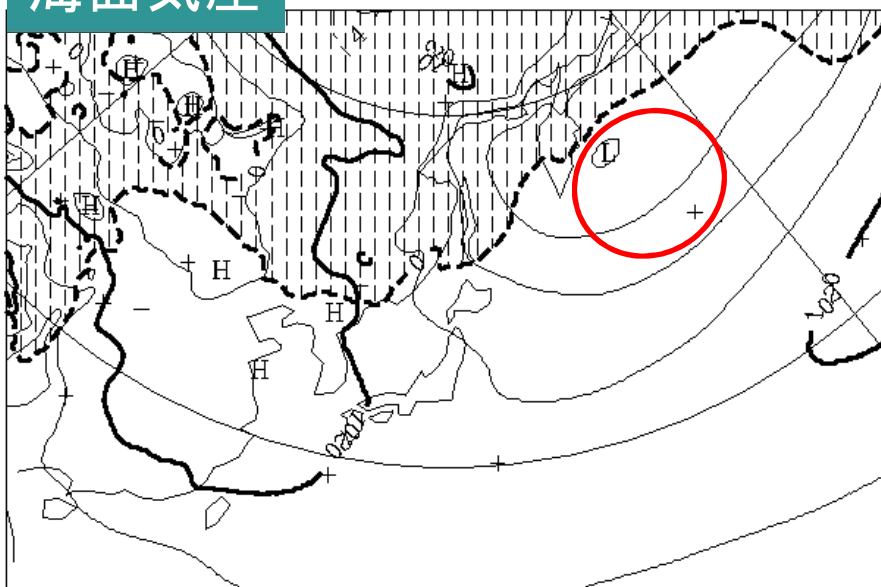
北極付近は負偏差、日本のはるか東を中心に正偏差で、北日本を中心に寒気の影響を受けにくい。

850hPa気温



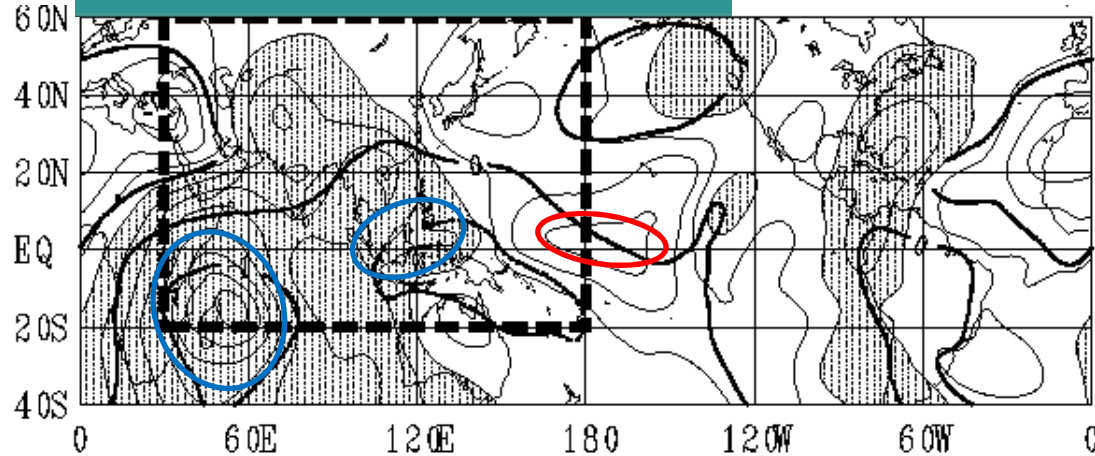
華南から日本の南にかけて負偏差で、沖縄・奄美を中心に寒気の影響を受けやすい。一方、中国東北区から千島の東にかけて正偏差で、北日本を中心に寒気の影響を受けにくい。

海面気圧



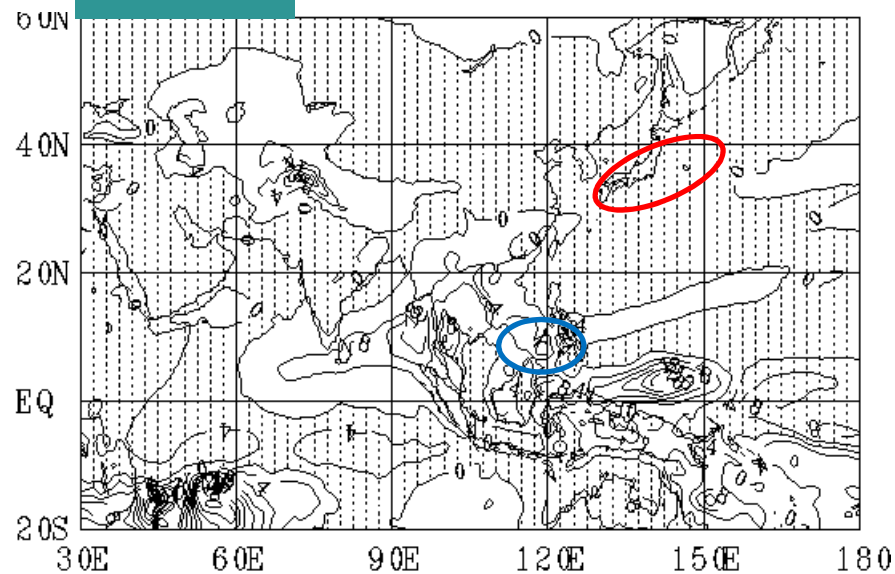
アリューシャン低気圧が弱く、北日本を中心に冬型の気圧配置が長続きしない。

200hPa速度ポテンシャル



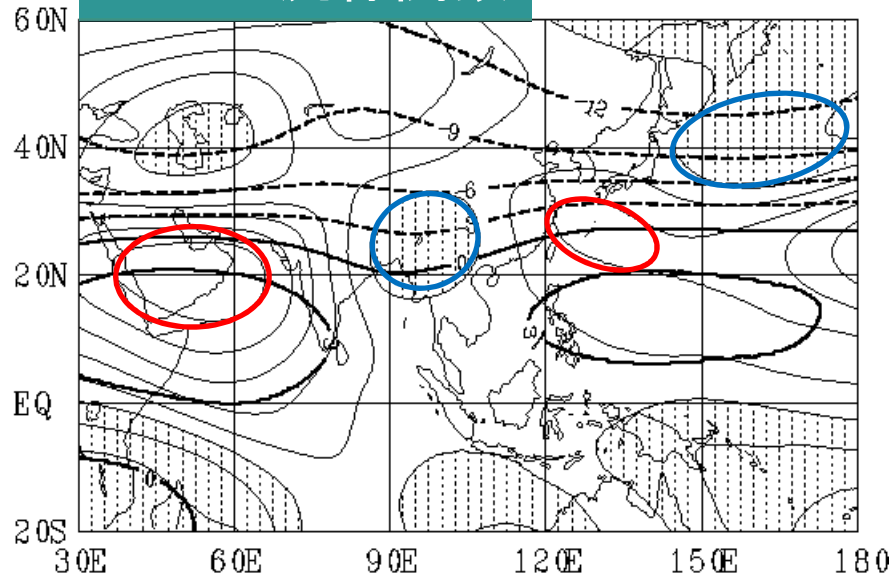
インド洋西部と南シナ海を中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



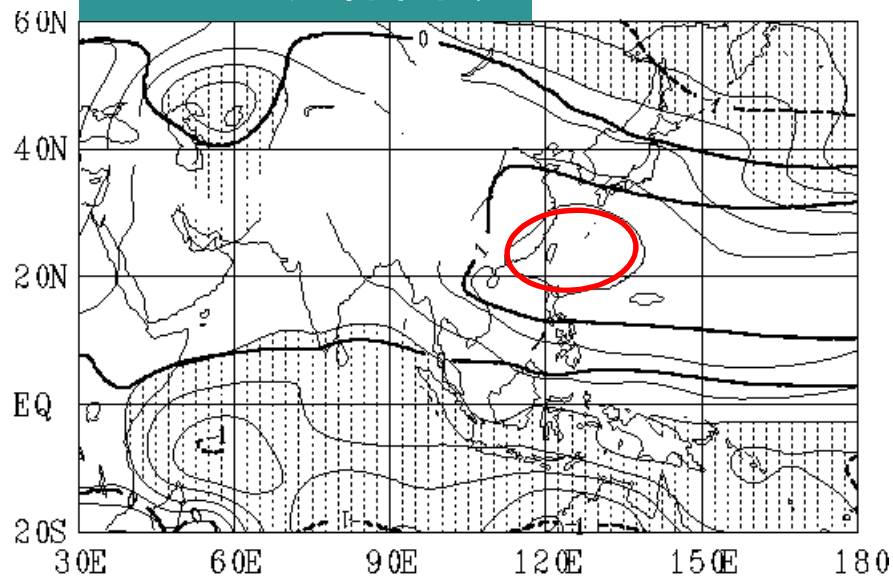
フィリピン付近は多雨偏差。日本付近は太平洋側で少雨偏差。

200hPa流線関数



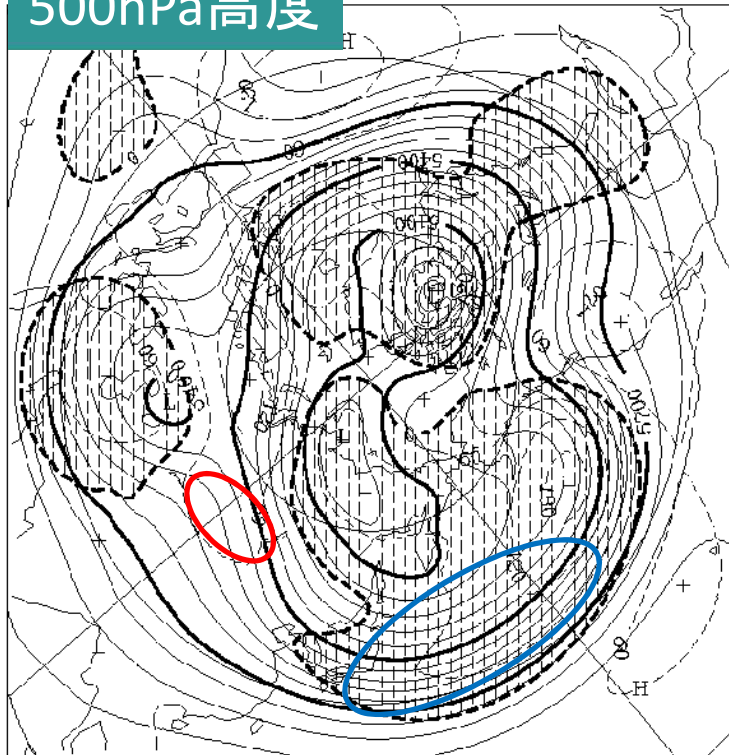
アラビア半島付近で高気圧性循環偏差で、熱帯の対流活動が寄与。亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播により、ミャンマー付近と日本の東は低気圧性循環偏差。東シナ海は高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

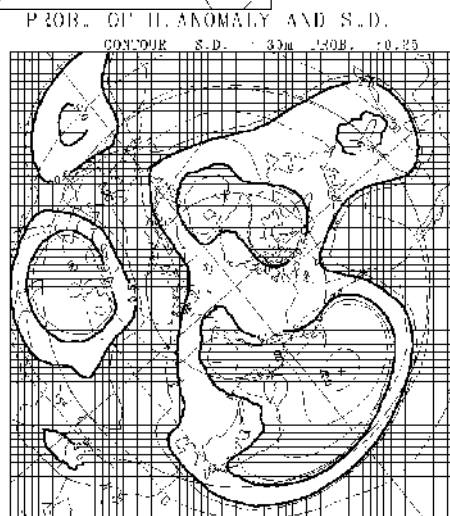
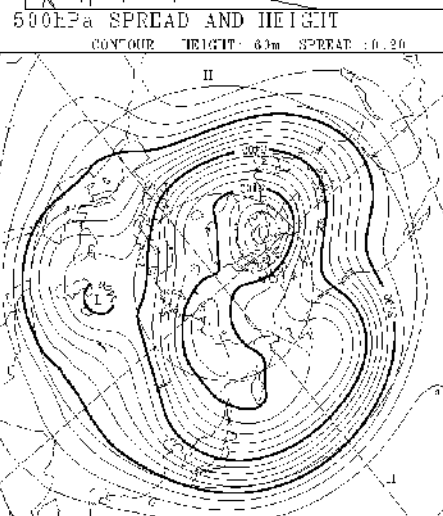


東シナ海を中心に高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

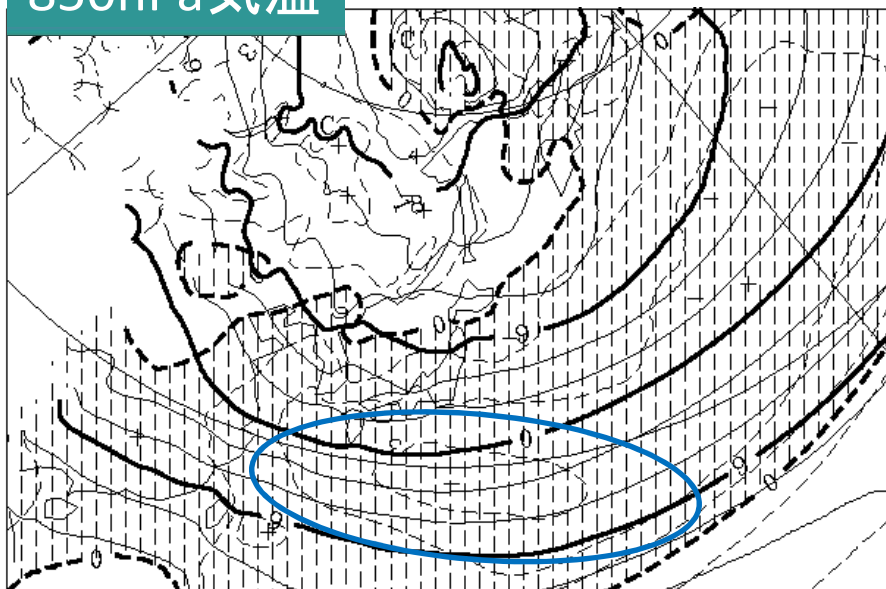
500hPa高度



寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播と亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播が合わさり、日本付近は負偏差。東・西日本と沖縄・奄美は寒気の影響を受けやすい。

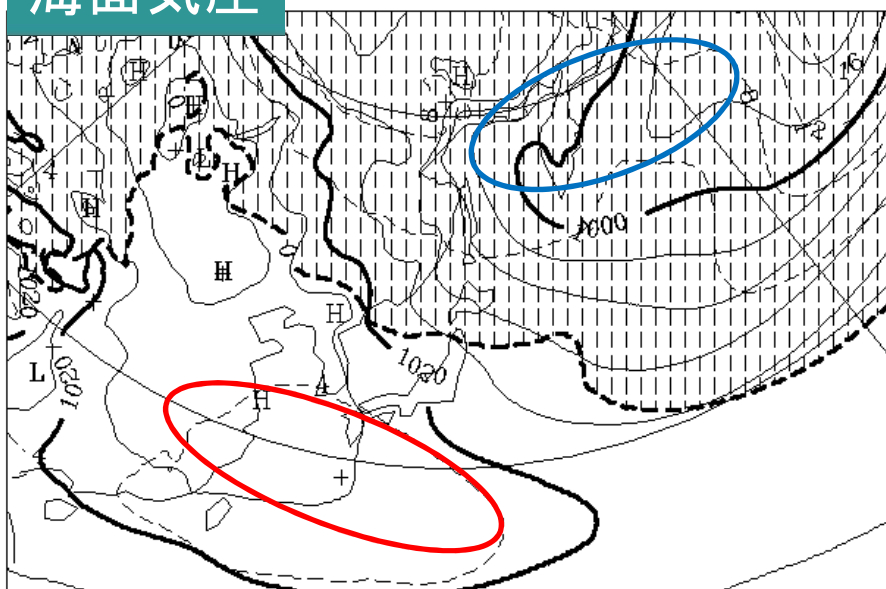


850hPa気温



西日本と沖縄・奄美を中心に
本州以南は負偏差。

海面気圧



アリューシャン低気圧が強く、
シベリア高気圧が日本の南に
張り出し、北・東日本を中心に
冬型の気圧配置。北・東・西日
本太平洋側は低気圧の影響を
受けにくい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷や寒気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

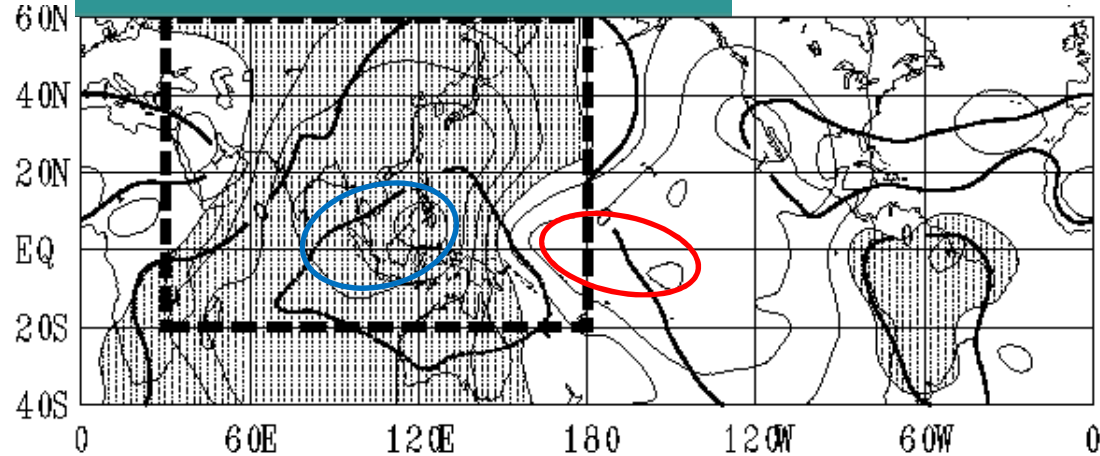
<気温>

- ・ 東・西日本と沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすく低温。北日本では並温。

<天候>

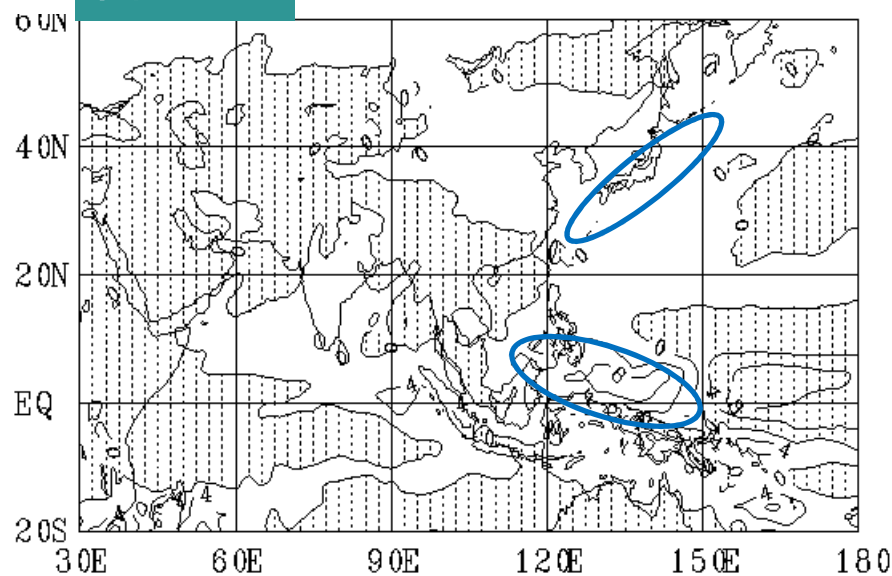
- ・ 西日本日本海側は、期間の終わりは冬型の気圧配置が緩む。
- ・ 沖縄・奄美では、期間のはじめは気圧の谷の影響を、期間の中頃は寒気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



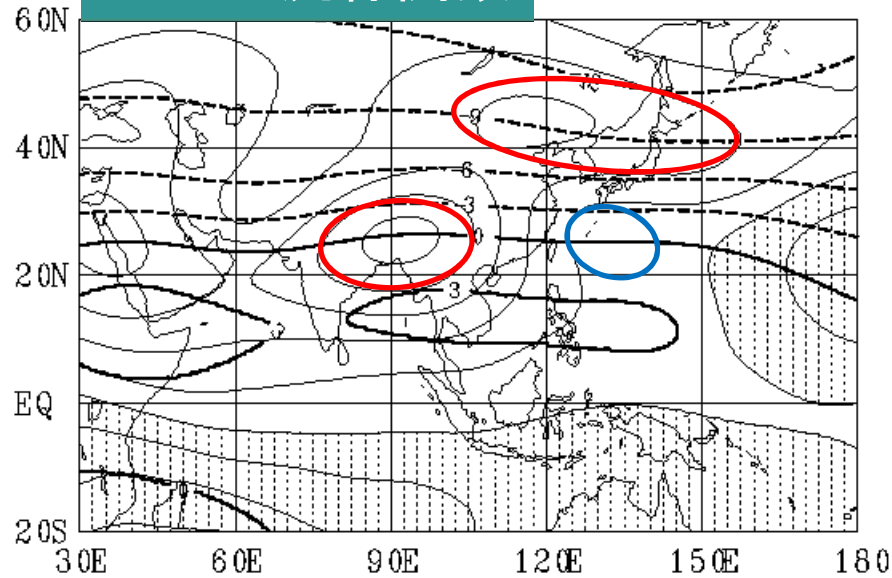
インドネシアからフィリピン付近を中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



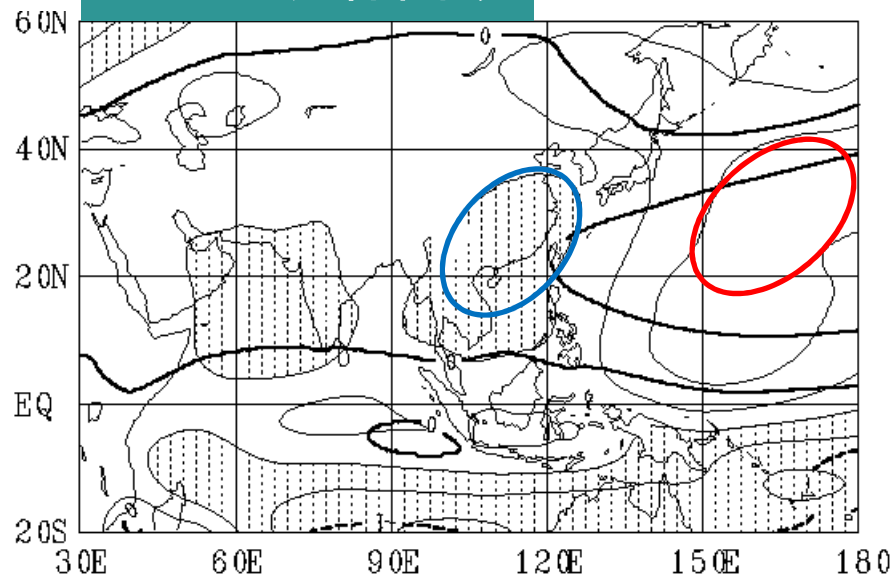
インドネシアからフィリピン付近にかけて多雨偏差。日本付近も太平洋側を中心に多雨偏差で、低気圧の影響を受けやすい。

200hPa流線関数



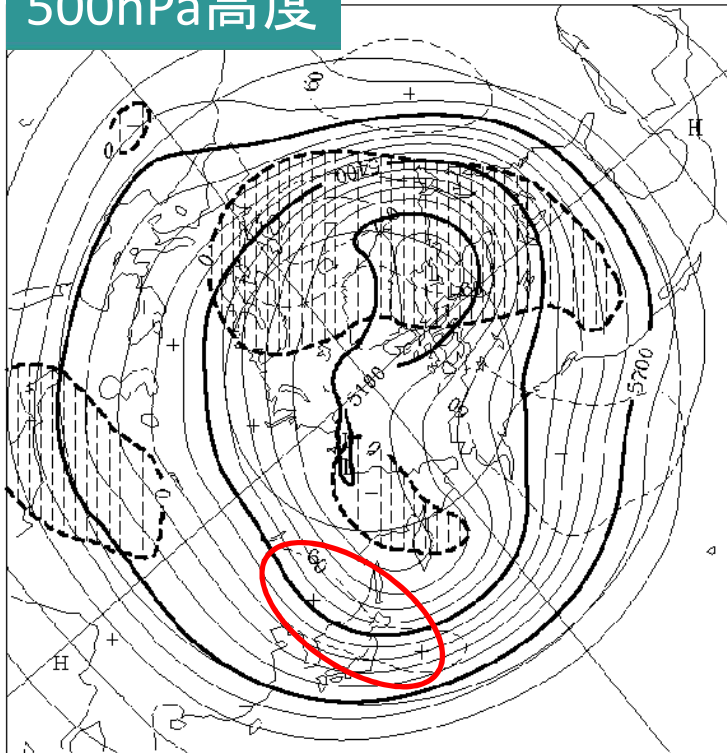
チベット付近を中心に高気圧性循環偏差。この偏差の形成には、熱帯の対流活動が寄与。中国東北区から日本の東にかけて高気圧性循環偏差、日本の南は相対的な低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



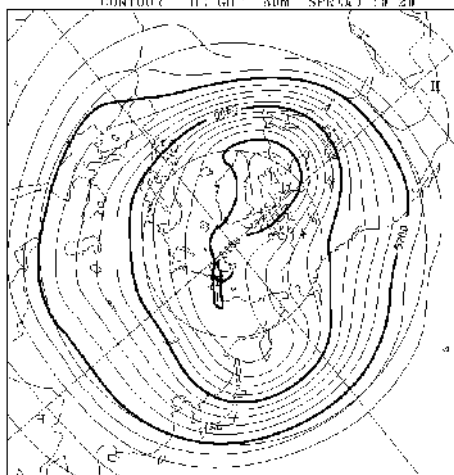
華南から東シナ海にかけて低気圧性循環偏差。日本の東で高気圧性循環偏差。

500hPa高度

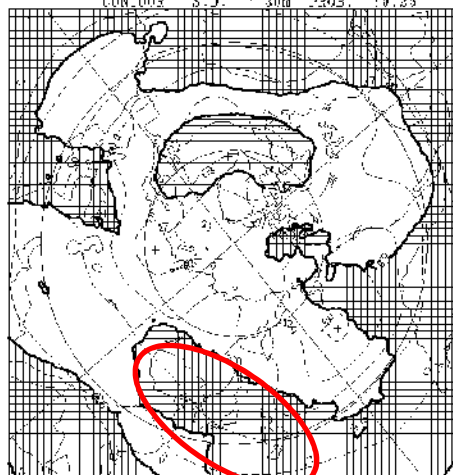


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.



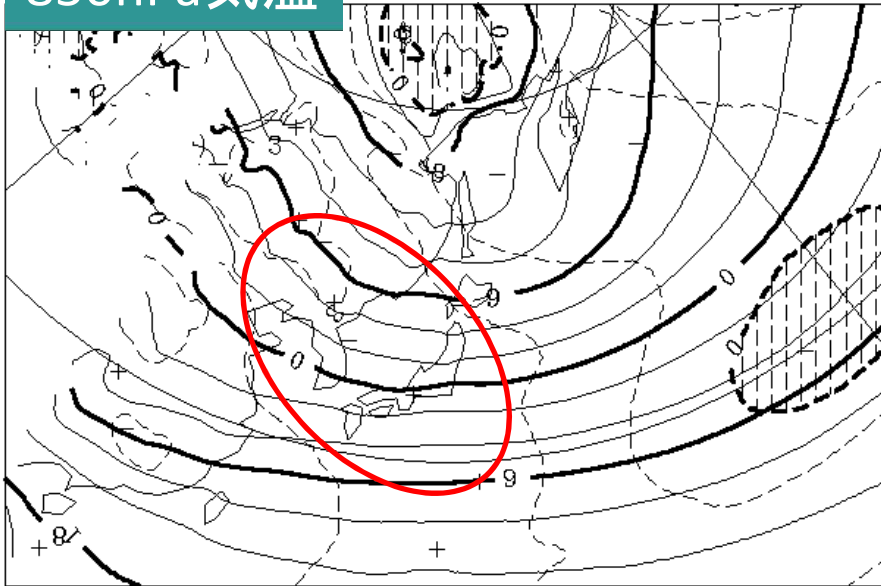
CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20



CONTOUR S.D. 300 2203 0.25

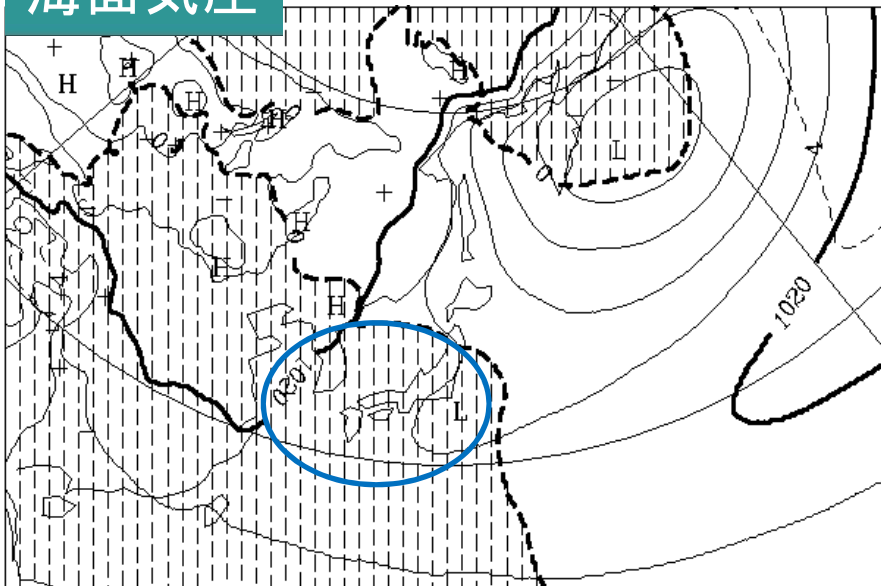
バイカル湖の東から日本の東にかけてを中心に正偏差で、北・東・西日本は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われ、寒気の影響を受けにくい。日本付近は西谷で、低気圧の影響を受けやすい。

850hPa気温



北・東・西日本は正偏差。

海面気圧



冬型の気圧配置は弱く、本州付近は負偏差で、北日本太平洋側を中心に低気圧の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

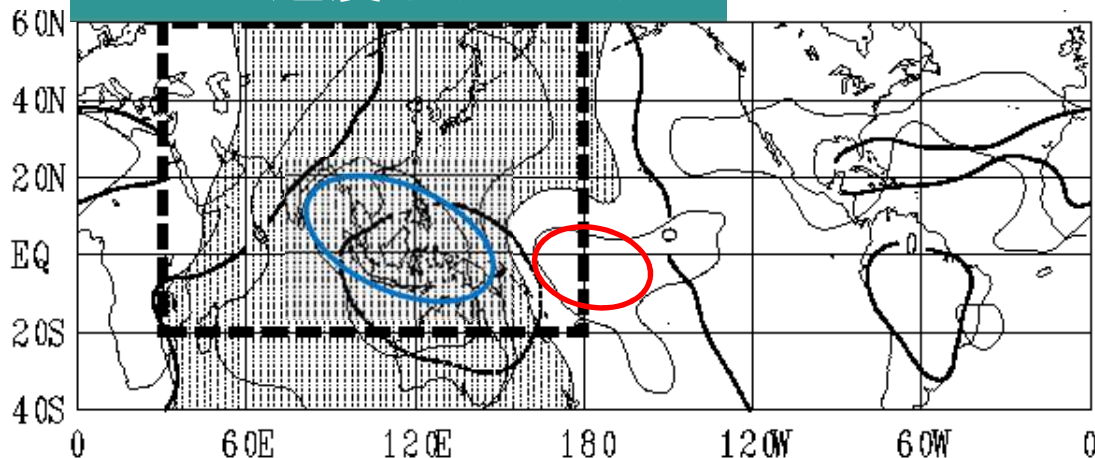
<気温>

- ・北・東・西日本では寒気の影響が弱いため高温。沖縄・奄美は並温。

<天候>

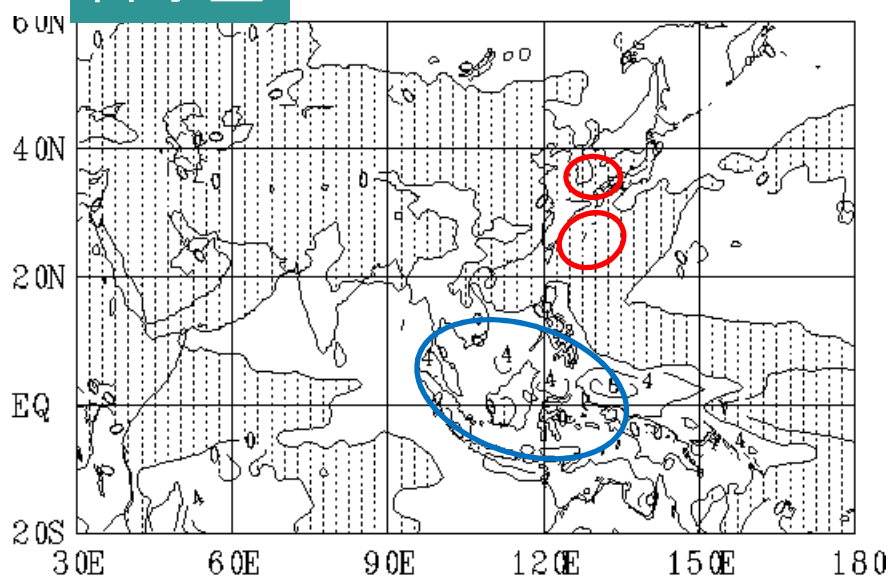
- ・北・東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が弱いですが、低気圧の影響をやや受けやすい。
- ・沖縄・奄美では、低気圧の影響をやや受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



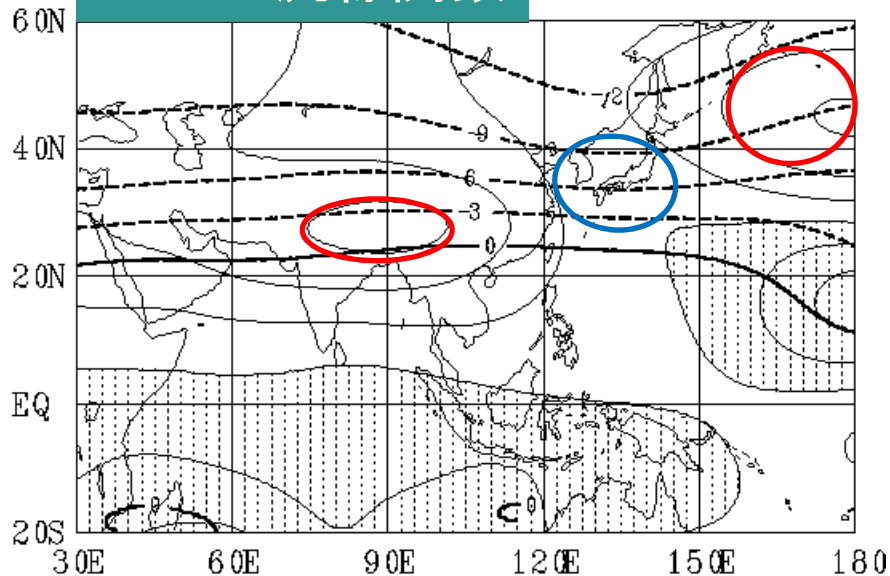
インド洋東部からインドネシア付近にかけてを中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



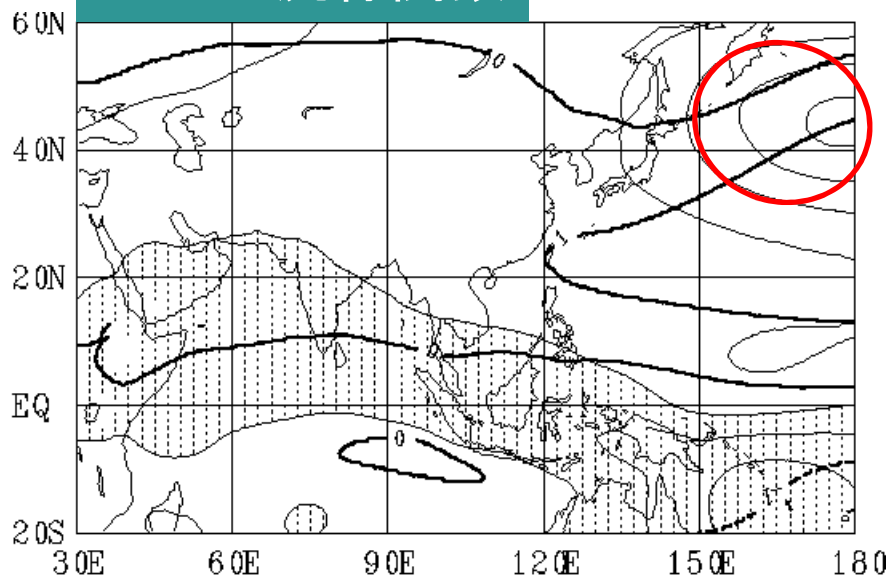
インドネシアからフィリピン付近にかけて多雨偏差。日本付近は西日本と沖縄・奄美でやや少雨偏差。

200hPa流線関数



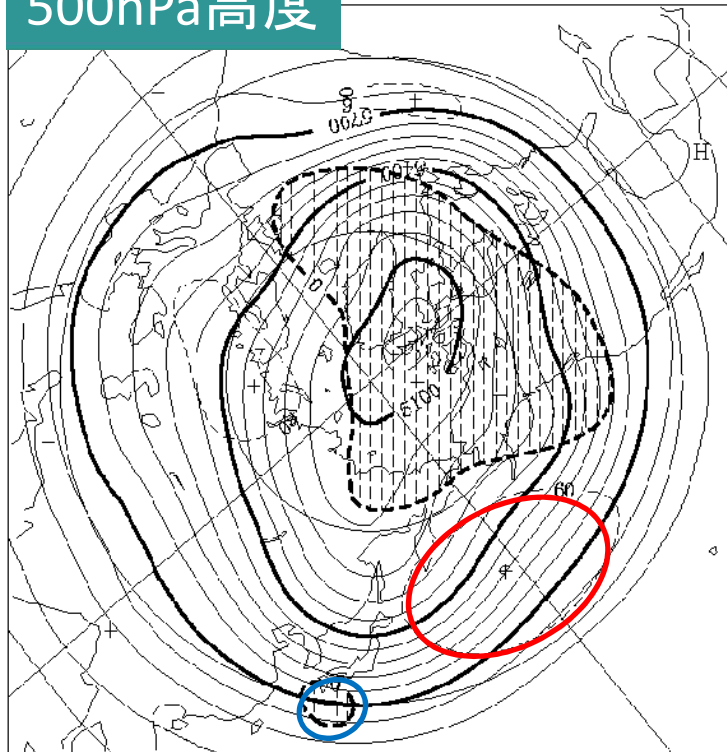
チベット付近を中心に高気圧性循環偏差。この偏差の形成には、熱帯の対流活動が寄与。日本のはるか東は高気圧性循環偏差で、日本付近は相対的な低気圧性循環偏差。亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響で、沖縄・奄美を中心に寒気が流れ込む時期もあると見込む。

850hPa流線関数



日本の東で高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

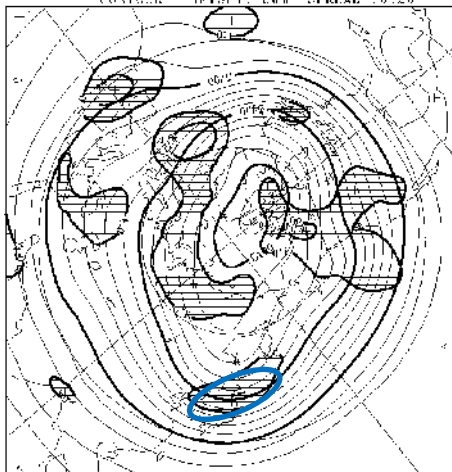
500hPa高度



日本の東を中心に正偏差で、北海道付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。西日本付近は負偏差だが、日本付近のスプレッドがやや大きく、寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播の不確実性は大きいことから、負偏差の影響は弱めて考える。

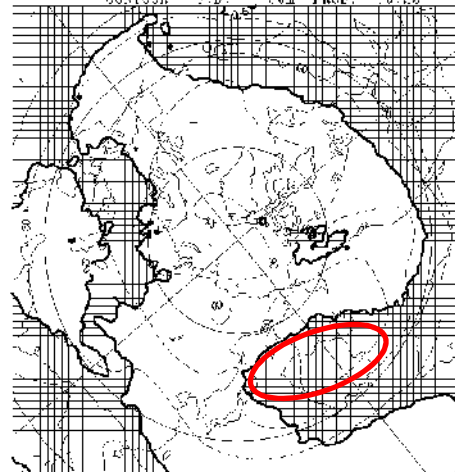
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

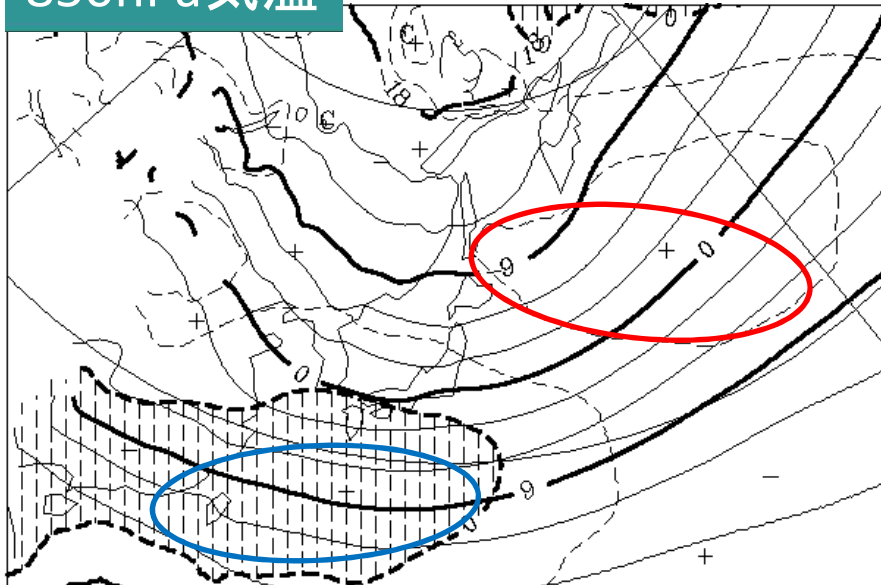


PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

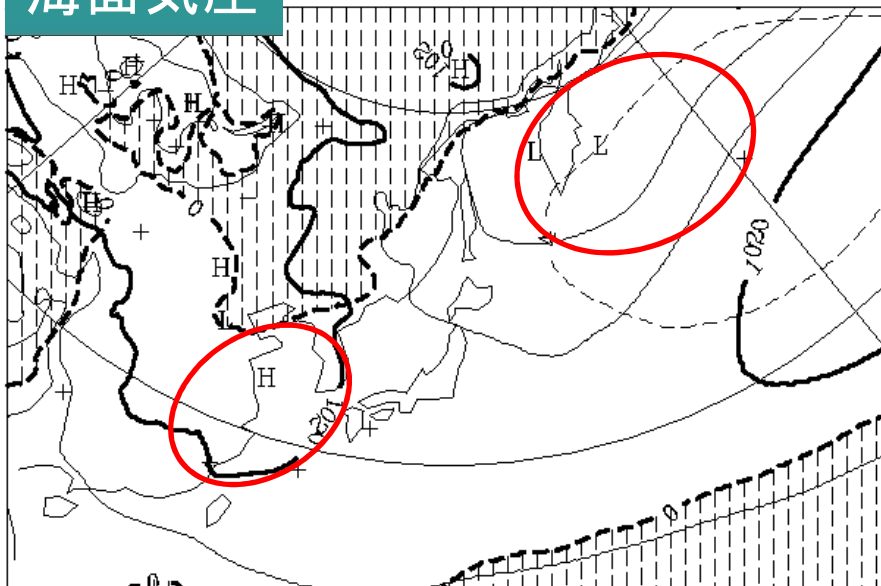


850hPa気温



千島近海から日本の東にかけて正偏差、華南から日本の南にかけて負偏差。

海面気圧



アリューシャン低気圧が弱く、冬型の気圧配置は弱い。西日本と沖縄・奄美は大陸の高気圧にやや覆われやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

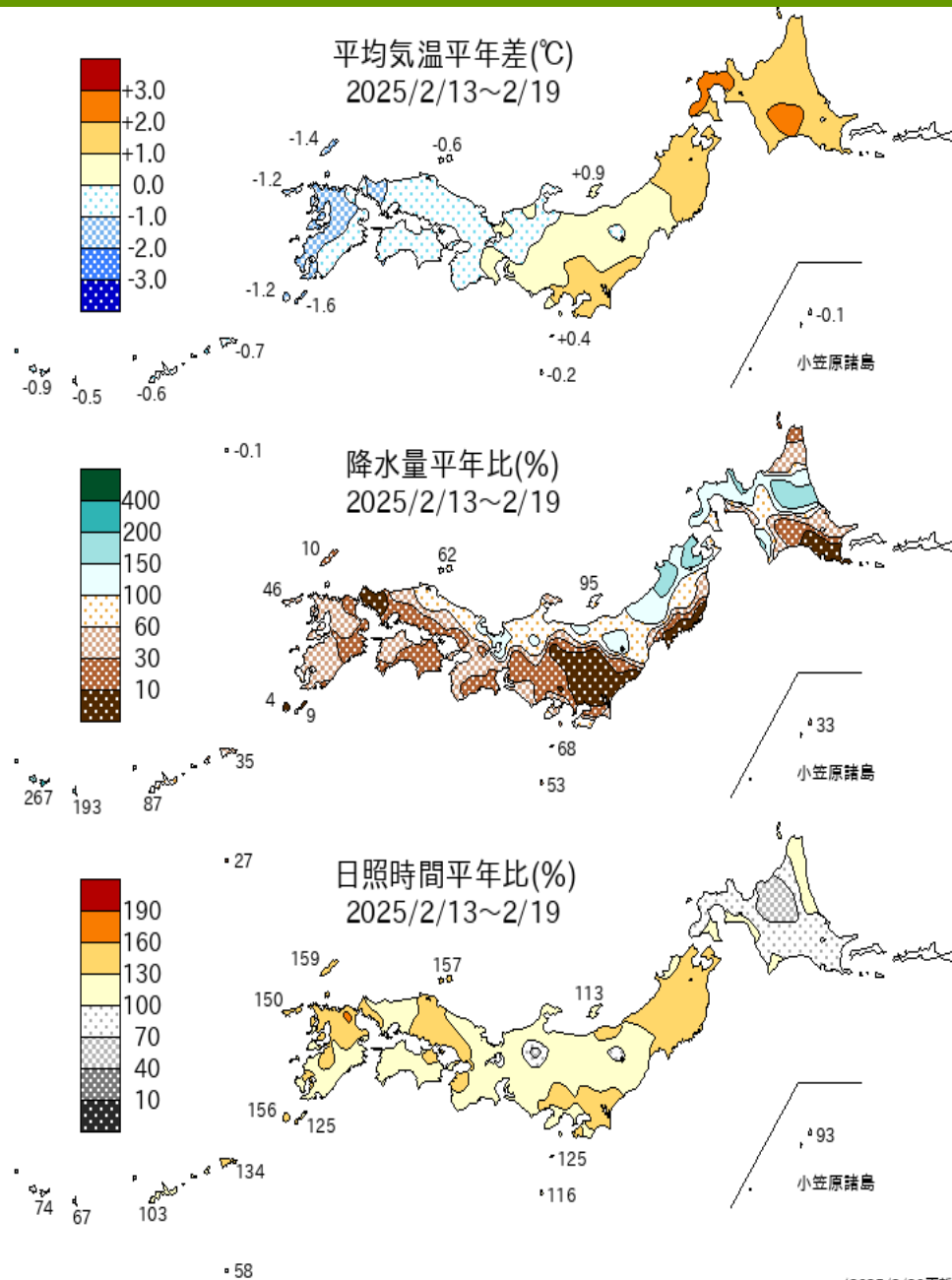
<気温>

・北日本では寒気の影響が弱いため高温。沖縄・奄美では寒気の影響を受ける時期があるため低温、東・西日本は並温。

<天候>

・西日本と沖縄・奄美では高気圧にやや覆われやすい。

最近1週間の天候経過



最近1週間(2月13日~2月19日)は、期間のはじめと終わりは冬型の気圧配置となりましたが、期間の中頃は本州付近は移動性高気圧に覆われました。また、沖縄・奄美では期間のはじめに前線の影響を受けました。降水量は北日本日本海側と沖縄・奄美の一部では平年を上回り、東・西日本では平年を下回りました。日照時間は北海道と沖縄・奄美の一部では平年を下回り、東北地方と東・西日本では平年を上回りました。

気温は西日本と沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすかったため平年を下回り、北・東日本では期間の中頃までは寒気の影響を受けにくかったため平年を上回りました。